

T-ACT 天の川クリーンプロジェクト (13020A)

つくばアクション
プロジェクト

(29)

ふじい けいた
藤井 啓太 (理工学群 工学システム学類 1年)



部屋掃除って気まぐれにやりますよね

登山家ジョージ・マロリーは、“なぜ、あなたはエベレストを目指すのか?”と問われて、“そこに山があるから。”と答えました。僕たちの活動動機にも道徳的意味や、倫理的価値基準は全くもって無関係なものでした。敢えて動機を言うなら、ただ汚いと感じたからでしょうか。“そこにゴミがあったから”僕たちは掃除をしました。

僕たち1年生が入学したての頃の天の川は、藻で水面が覆われており、とてもではないけれど美しい景観とは言い難いものでした。周囲の1年生も同意見のようだったので、僕は何となく、“100人くらい人集めて掃除すれば1日で綺麗になるんじゃないか?なあ、掃除しね?”と尝试してみました。気まぐれで深い考えのないこの発言ですが、皆が賛同してくれました。ここから活動は始まりました。5月上旬のことです。

気まぐれは簡単に上手いかない

活動がT-ACTに承認されてから、僕たちはまず人集めを行いました。まだまだ未知の大学でたくさん人があるという理由だけで僕はすぐに人が集まってくると思っていました。ですが、現実はその甘くなく、最初の1ヶ月でやっと30人ほどでした。それも身近な人を中心として。ですが、各学類の1年生のLINEグループに投稿してもらい口コミで僕たちの活動は広まっていったようで、ほとんど全部の学類の方から応募をしていただきました。また、大学院生からも参加申請が来ていました。

人集めに四苦八苦しながらも当日に向けての活動は同時進行で進めなければなりません。大人の方々と連絡を取る機会は自然と多くなり、けれど正式なメールの文面もわからず、お叱りを受けたこともありました。アポイントメントの取り方なども含め、今から考えると雑作もないことが入学したての僕にはとても難しかったです。

また、生物環境学群を中心とした方々から天の川に生息している生物への配慮から多くの批判をいただきました。その為、当日の活動でどのようにして生物を安全な場所に移すかなど何度も議論を行いました。

必要なのは練られた計画より臨機応変さ

この小見出しは少し誤解を生むかもしれません。僕たちは、参加者の当日のシフトや、作業行程、作業方法などの計画を練りました。参加者の多くが当日のみの参加だったため、詳しい説明が必要だと考えたからです。実施日は掃除場所の呼び名“天の川”にちなんで7月7日の七夕にしました。

作業日当日の天気は梅雨が明け、その直前の1週間とはまるでちがったものでした。最高気温は5度以上の変化があり、熱中症対策には特に気を付けました。活動では土嚢を300袋用意し、シャベルなど

を使って藻やヘドロを入れていきました。この作業を約4時間続け、土嚢は使い果たしました。ですがまだ綺麗になっていなかったため、緊急で150袋を追加購入し、また飛び入り参加でテニスサークルのFORESTの皆さんに手伝っていただきました。作業の終盤からはリアカーを使って下流へ運搬、道具の掃除、周辺の後処理を行いました。予定通りことが運んだことの方が少なかったと言っても過言ではありません。それでもなんとかなるものです。集まった人数は総勢約80人でした。

綺麗になった満足感とまだ気になるあの部分

作業は順調とは言えませんが無事天の川は綺麗になりました。参加者や僕の身の周りの人からはたくさん声をかけていただきました。ですが、反省点もあります。それは指摘していただいた生物の件です。網を用いて魚の多くは下流へ放流することができましたが、あまりの数の多さで魚を捕るのに時間がかかりました。当日は作業のため水量を減らしていたこと、梅雨明けで気温も高かったことから水温は急激に上昇してしまい、小魚をはじめとした多くの生物が死んでしまいました。一番後悔していることです。

1年生が中心となって行われた本活動で僕を始めとして参加者の得られたものは多かったのではないのでしょうか。メールの書き方などの大学生・社会人としての常識の基礎を鍛えられたと感じています。思いつきでしかなかったものからここまで多くのことを得られたのは初動、つまりは行動力のお陰であったと思います。これから入ってくる新入生はもちろん、みなさんにも「活動を行う際に躊躇や戸惑いは必要なく、慎重さだけがあればいい」と伝えたいです。動機はただ“そこに〇〇があるから。”たったそれだけでいいのではないのでしょうか。

本活動ではたくさんの方々に世話になりました。お手伝いをしてくださった方々、この場を借りてお礼申し上げます。

